

## 創立50周年を迎えて



草加市テニス協会  
会長 上 羅 廣

創立50周年を迎えるに当たり、一言ご挨拶申し上げます。

50周年を迎え、記念大会の実施、試合結果の検索システムの構築、記念式典、祝賀会などの事業を企画し、すでに終了したものもありますが、まだ準備・整備に追われているものもあります。役員の方々のご苦勞に感謝いたします。

さて、この10年の動向を簡単に振り返りますと、40周年を迎える前から、登録団体・登録人数、試合への参加者数などの減少の傾向が見え始め、40年を超えてからはその傾向は次第に激化していきます。テニス協会という組織からすると、きわめて大きな問題を抱えていると言えます。この点に関しては別途稿を起こします。

「ジュニアとシニア」という掛け声の下、長年協会運営にあたってきましたが、土曜日ジュニア教室は現在通年体制となり展開しておりますし、放課後ジュニアも15年を過ぎ地道に活動しております。シニアに関しても着実にシニア大会を実施・継続し、また最近ではシニアを対象としたテニスレッスン教室も開設されています。試合志向のシニアが育つ基盤となることを願っています。

また、長い間存続していた古いイメージのホームページが今年リニューアルし、見やすく扱いやすくなりました。記事を徐々に充実させていきます。

最後になりますが、これまで協会の活動に関わってこられた諸先輩方、施設等にご配慮いただいた草加市関係の方々、そして（公財）草加市体育協会の関係の方々に心より感謝申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

## 祝 50 周年にあたり



草加市テニス協会名誉会長  
今井 宏

草加市テニス協会は、ここに創立以来 50 年を迎えました。

上羅 廣会長をはじめ歴代の役員、並びに協会の皆さまと共に心からお祝い申し上げます。

思い起こすと、50 年前にテニス協会を設立するために、ご尽力をいただきました初代テニス協会会長（故）石井 守先生にあらためて敬意と感謝をささげる次第です。

私の市長時代に取り組んだ「そうか公園」建設にあたり、公園内のテニスコートを当時としては、比較的めずらしい全天候型のオムニコートを採用するようにご指導いただきました。

柿木地区の田んぼを埋立して造成したところのテニスコートでしたので地盤沈下を起こすのではないかと（当然着工前にあらゆる検査やテストはしましたが）共に心配しましたことも思い出です。

さて念願の松原テニスコートの建設についてですがこのほど市当局にヒヤリングをしたところ約 2 億円弱をかけ、テニスコート（ハードコート）3 面、クラブハウスやナイター設備を併設するとのこと。基本設計や実施設計を 2020 年 3 月までに済ませ、オープン は 2022 年 4 月の予定ということです。

草加市のテニスは、松原団地テニスコートから始まったと言っても過言ではありません。念願のオープンに期待をしています。

来年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。

草加市スポーツ健康都市にふさわしいスポーツの盛んなまちの推進に皆さんと共に前進してまいりましょう。

# 草加市テニス協会

## 50周年を迎えるにあたり



草加市テニス協会  
理事長 宇田川 剛

草加市テニス協会が50周年を迎えるにあたり一言ご挨拶させていただきます。

さすがに半世紀という長い期間に渡り活動できたのは、協会の会員、各サークルの代表者等活動に参加頂いた方、また草加市、そうか公園、吉町コート、GTP、ダイキン工業、草加高校等テニスコートの使用を許可して頂いた関係各位の協力のお陰と皆様に感謝致します。

昭和61年より平成の全ての期間に渡る30年以上の間、上羅会長のもと理事長として務めてまいりました。

些か、長過ぎた気も致します。

特にこの10年を振り返ると、登録者、試合参加者ともに減少の一途をたどっています。獨協大学生をはじめとする20才代以下の方々の減少、登録者の高齢化、運営方法のマンネリ化等が考えられます。獨協大学同好会についてみれば、庭球部を除く同好会の登録は最大時10近くあったものが2014年にはグリーンウッドのみの登録が最後で2015年からは1つの団体も登録がなくなってしまいました。高齢化の状況を見ると1999年での50才以上の割合が18%だったものが2019年では5.6%にもなっています。また、選手の皆さんにはSNSの浸透で簡単に拘束も緩く楽しむことのできる大会が身近になったことも大きな理由かもしれません。我々として反省すべきはこの10年運営方法等をあまり変更せず旧態依然として来たこともあるかもしれません。

ジュニア、シニアに対する普及活動としては大会、教室等の開催を多少なりとも増加させてきました。

草加市や草加市体育協会主催の行事にも協力してまいりましたが、こちらも些かマンネリ化の傾向にあります。

そんな中でも、草加市在住、在学の若く優秀な選手の活躍は見られます。2018、2019年埼玉県大会春シングルの連覇している蓮見亮登君、県都市対抗戦では獨協大学庭球部の前道隆位君、新井駿太郎君をはじめとする選手の活躍で平成元年の準優勝以来30年ぶりのベスト4入を果たしました。

今後は50周年を区切りとして体制を変えて再出発することとしています。

是非、新体制にも今まで以上に皆様のご支援、ご協力が必要ですので宜敷お願い致します。私の希望としては、現在中学校の部活動の在り方が問われていますが、現在1校もないのでどんな形であれ市内の中学校に硬式テニスの活動を行う学校を増やして貰いたいと思っています。

尚、草加市テニス協会の発足当時からの話やその後の活動については、30周年及び40周年記念誌にあるので機会があればご覧下さい。（草加市中央図書館に寄贈及び50周年HPに掲載）

最後に、本年草加市体育協会から「功労賞」という過大な賞を頂きました。これは皆様の多大な支援のお陰でありここにご報告させていただきます。